

“いつものばしょ”から見えるもの ～生活科教科書を開いて～

信教生活科教科書『せいかつ上あおぞら』に掲載されている“いつものばしょ”という見開きのページです。左上の木の部分拡大してみます。



春



夏



秋



春のページ。野に遊びに来た3人の子が木につかまって遊んでいます。目の前にある木に挑み、自分の体の応じ方を試しながら楽しんでいます。

夏のページ。木に登り枝に手をかけてバランスを取りながら網を持っている女の子がいます。木の上が自分の手の届く範囲に入ってきました。

秋のページ。作ったはしごを木に掛けて登り、ゆとりのある表情で太い枝にまたがっています。また、木の下には基地作りが仲間と力を合わせて進んでいます。

このように、“いつものばしょ”に繰り返し通い、心ゆくまで遊び込む中で、子どもの体が“太く高い木”に應じたり、そこに創造性を働かせながら遊びを作り出したり、友だちとの関係性が生まれてきたりする様子が描かれているのです。

「あまり生活科の教科書は使わない」「どのように使ったらいいかわからない」などの声も聞かれる生活科教科書ですが、よく見てみると、活動を通して子どもたちが学んでいく姿をとることができるのです。また、指導書に記されている事例からも、大いに示唆されるものがあります。今年度の「レッツビギン」では、『生活科教科書・指導書からの学び』を特集していきますので、ぜひお読みいただきたいと思います。



つるにぶら下がり空中散歩
～遊び込めばこんなことも～

◎今年度も『レッツビギン』を全会员单位にお届けします。